

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を！

よさのうみ福祉会広報誌

きょうと福祉人材
育成認証制度



福祉よさのうみ

第97号

2017(平成29)年5月1日

発行 ■ 社会福祉法人 よさのうみ福祉会

URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>

〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6

TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606



「作業所開設40周年」

泣いて笑ってまた大笑い

1976年に仲間8名、職員1名で、産声を上げた「宮津共同作業所」。地域の皆様方に励まされ支えられ、開設40周年を迎えることができました。開設当時の関係者の熱い想いを受け継ぎ、障害のある方達に豊かな生活を保障することをめざし、「みやづ作業所」「すまいる」と名称は変わりましたが、今日まで取り組みを継続させてきました。

3月19日(日)に宮津会館で開催したこのイベントは、開設40周年の節目としてこれまでの歴史を振り返ると同時に、新たな歴史を作っていく第一歩を刻む企画です。「宮津で育って40年。泣いて笑ってまた大笑い」と名付けたこのイベントには、地域の皆様からいただいたたくさんの方々の笑顔に対する感謝と、今後も一緒に笑いあおう！という思いがこめられています。

当日は約700人の参加を得ましたが、大きな混乱もなく無事終了させていただきました。宮津市をはじめご後援いただいた宮津市教育委員会、宮津市社会福祉協議会、宮津市民生児童委員協議会、ご協力いただいた多くの皆様にご礼申し上げます。ありがとうございました。(イベントの様子は次項にて報告させていただきます。)

ぼくは、6年前に発生した東日本大震災について報告しました。今までで一番がんばり、福島原発事故の報告をがんばりました。また、来年も実践報告会で何を報告するのを見てほしいです。

仲間の感想

支援学校の時は、文化祭や体育祭等の行事があると、学校のポスターを破りゴミ箱を壊していたA君、自分の気に入らないことがあると学習プリントをビリビリに破り教室から出ていたBさん、少し難しい課題があると固まってしまつてジィ〜と机に伏していたCさん…そのような彼らが、「きらり」設立の意義や値打ちを5人それぞれに報告の中で、雄弁に語り証明してくれました。

「きらり」の実践の神髄を 仲間の発表が証明

支援学校の時は、文化祭や体育祭等の行事があると、学校のポ



多くの人が実践報告会に参加してくれて嬉しかったです。いろんな人にほめられて嬉しかったです。お父さんやお母さんも参加してくれて良かったし、ほめてくれて、とてもうれしかったです。

実践報告会は、はじめてだけど、久美浜町の発表ができてよかったです。学校の先生が「すごいな」とほめてくれました。ぼくもだけど、みんなもとても良かったし、がんばった。来年も、もっといいねいに発表したいなあと思いました。とても緊張したけど、とても、良い経験になりました。

障害があるからこそ 本物の体験を

日本国憲法の国民の三大義務「勤労」「納税」「教育を受けさせる義務」の中で、今の特別支援教育は、障害を持つている人たちにも「勤労・納税」の義務を強く求めています。障害者の「タックス・ペイアー（働いて税金を払う納税者）」作りが主流になっています。「教育を受けさせる義務」はどこに行つたのでしょうか？

医療の発達によつて障害を持つている人たちの寿命が60〜70年と伸びている中で、なぜ彼らは18才以降、学ぶ機会が少なくなるのでしょうか。「きらり」では彼らにも「豊かで充実した、楽しい社会経験を深められる『青年期』を、じっくりとたっぷり経験させたい」と考えています。特別支援教育が、ドリル学習の内容が濃くなり、作業学習が強められ、掃除検定等がもてはやされることに大きな危惧を感じています。

本来は、障害があるからこそ、豊かな本物の教材、具体物や視聴覚教材を使って準備することが特別支援教育であると思います。それは、障

教育年限延長は障害児教育の「第3の扉」を開く

第1の扉は、就学猶予・免除を克服した「養護学校義務制」。第2の扉は、全ての生徒（過年度生）既に卒業していた生徒にも）への「高等教育の保障」。そして、第3の扉は、「高等部卒業後の教育年限の延長」です。この与謝・丹後の地に、どんなに障害が重い仲間にも「学びの作業所」の豊かな実践を積み上げ、発信したいと決意しています。

小畑先生からのうれしいメール

講演していただいた小畑耕作先生（大和大学講師）から後日メールをいただきました。

「ろむの発表で、青年たちの育ちに感動しました。私の方が、具体的に青年たちの育ちに確信が持てました。

さて、東日本大震災の報告は素晴らしいと思います。粘り強く色々なメディアや資料を使ってここまで積み上げられてきたのだと思います。その実践は凄いいと思います。」

イベントの様子



仲間の太鼓で開幕
かっこええ！やっぱりオープニングはこれ、という感じ。ピシッと決めてくれました。



井上市長よりご祝辞をいただきました。



構成詩

12名の方が40年前の思い出や将来の夢を語り、みやづ作業所の中西厚子さんが作詞した「働けるんですわたち」を歌ってあの頃に思いを馳せ、「陽気に生きようこの人生をさ」を歌い私たちの元気を表現しました。



宮津高校吹奏楽部

総勢60名の演奏は迫力満点。さらに「ヤングマン」（1979年のヒット曲）のダンスで盛り上がりました。

歌の力

エンディングは宮津高校吹奏楽部の伴奏で「365日の紙飛行機」を大合唱です。みんなで歌うことが本当に楽しかったです。太古の昔から人が集うと歌が生まれ、歌は笑いを生む。悲しみも喜びもぜんぶ吸い込んで昇華してくれる。この世は「歌と笑い」で成り立っているのかもしれない。

◎良いものは語り継がれる

40年前、熱い想いは共同作業所を立ち上げました。その想いは「みやづ作業所」「すまいる」「伊根の里」となって今でも生き続けています。私たちにはこの想いを受け継ぎ育て、次の世代へと引き継ぐ使命と責任があるのです。いい歌は残る。熱い想いも残さなければなりません。

♪「風の中を力の限りただ進むだけ さあ心のままに365日」♪
「365日の紙飛行機」AKB48

【すまいる 管理者 杉本 正和】



総司会司の百鳥秀世さん

百鳥さんに司会をお願いして本当に良かったあ〜ステージ袖ではハブニング続出（アア〜順番が違〜〇〇さんおらんで〜）でしたが、客席の皆さんには全く悟られることなく司会進行！さすがです。次もよろしく願います。



さすが芸人ハイテンション
「もりやすバンバンピガロ」って知ってます？



あの「銀シャリ」登場です。笑いあえるってすごいことです。みんな人間。この地球上で同じ空気吸って生きているんですから、いっしょに笑いましょうよ。



「Wヤング」平川師匠76歳とは思えない。佐藤兄さん、カッコよかったです。芸の力は偉大です。

◎40年前1976年にヒットした歌…

「おかげ！たいやきくん」シングル売上450万枚。この記録未だ破られず。
「木綿のハンカチーフ」作詞：松本隆 作曲：筒美京平の最高傑作「北の宿から」この年の日本レコード大賞受賞。

イントロを聴いただけであの頃の情景が脳裏に浮かびます。

職場定着促進のため 在職者の交流活動を実施 ～リフレかやの里バイキング～

障害者就業・生活支援センターこまち 主任 志月 友美

**職場定着促進のための
在職者の交流活動とは**

障害者就業・生活支援センターこまち（以下、こまち）では、障害のある方の求職相談や職場定着支援をおこなっています。職場定着支援の一環として「職場定着促進のための在職者の交流活動（以下、交流会）」を年に4回実施しています。参加いただく対象は、こま치의登録者で企業に就職をされている方々です。

交流会は「職場で生じる様々な課題をテーマとしたグループワークや勉強会、レクリエーションを通じて、参加者同士が仕事で頑張っていることや悩みなどの意見交換をし、職場不適應を早期に把握することや職業生活上の課題を解決する」ことを目的としています。

今年度の取り組みは、7月『流しそうめん（参加者30名）』、10月『舞鶴ふるるファーム、エル・マールまいづるへお出かけ（参加者37名）』、12月『応急手当講座（参加者27名）』を実施しました。今年度最終の第4回目は、3月4日（土）に『リフレかやの里』へ食事に行きました。バイキングは人気があり、33名と多くの方々に参加いただきました。

リフレかやの里での様子

食事の前に、まずは自己紹介。名前を紹介するだけでなく、参加者間がつながるきっかけになればと、仕事内容や趣味も紹介いただきました。お仕事は「製造業」「清掃」「接客」「調理関係」など。趣味は「カラオケ」「音楽をきく」「裁縫」「ゲーム」「電車でおでかけ」など。仕事内容や趣味で共通点があれば、今後交流会で顔を合わせた時に、会話ができるきっかけになると考えています。

食事中は、和やかな雰囲気でお話を楽しんでおられる様子がうかがえました。“おいしい！”との声も多くなりました。

良い取り組みを つづけていくために

こまちがスタートした2010年度から交流会を実施しており、その頃から毎回参加されている方もあれば、新たな顔ぶれもあり、年々参加いたたく人数は増えています。次年度もたくさんの方に参加いただき、参加者同士の交流がより深まる取り組みを、実施していきたいと思ひます。



12月 応急手当講座実施



3月 リフレかやの里での食事も

「社会福祉法改正に向けての向かい合い」

シンポジウムの参加報告

理事長 青木 一博

4月2日（日）、京都市内で開催されたシンポジウムに、よさのうみ福祉会がシンポジストとして招かれ参加しました。

主催は、障害者自立支援法以来、応益負担に反対する運動を継続している京都実行委員会。「社会福祉法改正に関わり、経営のあり方と利用者の権利保障を考える」をテーマに運営されました。

冒頭、立命館大学峰島特任教授より、社会福祉法改正の基本的な性格、改正内容の問題点、どのように向かい合うかの基調提案を受けました。

続いて、障害・保育・高齢分野から報告。障害分野は、よさのうみ福祉会が次の3つの柱に沿って報告と問題提起を行いました。

①医療・介護の新型法人創設のねらいと京都北部6福祉会交流・連携事業

国は、医療・介護サービスの効率化・高度化を、医療・介護の持続性と質の向上の両立をめざし、100億円規模の非営利大規模法人化とための法人間連携・合併をめざしています。すでに岡山市内で

②国の地域公益活動のねらいと私たちがめざす真の社会貢献とは

国は、既存の制度の対象とならないサービスを「地域公益活動」として供給するよう社会福祉法人に求めています。私たちは、既存の制度では対応できないニーズへの対応を恒久化するには、公的な責任を伴った新たな社会福祉制度を確立すべきであり、社会福祉法人の剰余

病院間連携推進法人設立構想が進み注目を集めています。

私たちは、新たなニーズへの柔軟で機能的な対応は、大規模な法人よりもむしろ中・小規模法人の方が迅速な意思決定が可能で、法人間の交流・連携は大いに促進すべきと考えます。

京都府北部地域では、長年にわたり障害者福祉をすすめる社会福祉法人が、研修会や研究会、施設見学会など多彩な交流・連携の取り組みを展開しています。毎年9月開催の京都北部職員研修会は33回を重ね、その規模と内容の豊かさは法人間連携ゆえの成果であり、職員の育ちや定着に貴重な実績をあげています。

金や寄付金に依拠した上からの押し付けでは地域福祉は育たないと考えています。

与謝野町では、地域振興のために巨額の投資で1998年に開設された「食と健康の滞在型保養施設リフレかやの里」が8年前に倒産、3年間の閉鎖後、2011年度からよさのうみ福祉会を指定管理者として地域と連携した再生の取り組みが展開されています。

地産地消のレストラン、木質バイオマスボイラーによる大浴場、森のホテル、規格外野菜を有効活用したジュース・ジャム等の6次産業化など、周辺地域と連携した事業展開により、リニールアルオープンから5年半にのべ利用者数は32万5千人を超えています。

リフレかやの里のように、社会福祉法人が主体的に地域ニーズに向き合う活動を地域と自治体と連携する中から、真の社会貢献事業が展開できるのではないだろうか。

③「共生型サービス」は、「生産性・効率の向上」から考えるべきでない

今から4年前に与謝野町に開設された地域共生型福祉施設「やすらの里」では、同一建物の中で4つの異業種間法人と行政が連携した事業が展開されています。6ユニット6床の特養、デイサービス・ショートステイ・サービス付高齢者住宅、

訪問看護ステーション、障害者就労系事業所が併設され、町の子育て支援センターが週3回開催されています。

やすらの里では、基準に基づく職員がきちんと配置され、それぞれの専門職の得意分野を活かすことで地域の多面的なニーズに応える条件を高め、「高齢者も児童も障害者もひとり親家庭も、安心して暮らせるまちづくり」に寄与しています。

シンポジウムは、保育分野からさらに福祉会北田理事が、高齢分野から七野会特別養護老人ホーム介山施設長が報告されました。利用者の権利としての福祉を真ん中に、公的責任を引き出しつつ地域福祉の取り組みを進めるため、障害、高齢、児童分野の交流と連携を強化することを申し合わせて閉会しました。



シンポジウムの様子

「親の会」

宮津作業所 親の会
大山 さち子

私がくしゃみや、咳を少ししても「お母さん大丈夫？」と心配してくれる心やさしい娘。

作業所から帰ってからや、休日の予定などを小姑のように私の動きを把握して、自分の動きを考えています。私が疲れた様子の時は、台所の片付けや自分が作れるおかずを作ってくれます。「帰ったらゆっくりして」とか「しんどかったらよ寝な」など等。

小さい頃から誰からも癒しを求められるくらい、ホッとする存在の子でもでした。本気のケンをすることもありますが、いつも先に声をかけてきます。いつまでも女の子（若いまま）でいてほしいという親の勝手な思いとはうらはらに、やはり年相応に変わっていく娘に「おばさんだね。」と言ってしまう私ももちろん本人はいつまでも若い気のでるので怒ります。

お化粧はもちろん、服装も今では口を挟むと反論してきます。姉の意見は素直に聞きますが・・・20代の頃は、嬉しかったこと

や悲しかったこと、腹が立った事など話してくれていました。が、30代からは自分で処理することが増えてきました。

いろんな病気がでてきたのもこの頃で、心の中の思いをたくさん溜め込んでいたのかと思うと心が痛みました。「成長」ととらえていた自分に反省し、改めてわが子を見つめなおす機会になりました。

唯一文句を言う相手は母だけ。親子ですが、友達のように何でも言い合える関係であり続けたと思っています。

母大好き、家が大好きで、まだ施設のことは全く気持ちの中にはないようですが、いつかはそんな時がくると思います。その時まで仲良く、時には私の方が叱られながら過ごしていけたらと思います。

日々何気なく過ごしてきていましたが、この記を書くことで、今日までのことを掘り起こし、あらためて考える機会をいただいたことに感謝しています。



「めいせ」理想の職員像

数年前、それまで勤めていた職場とは全く畑違いの福祉の世界に、私は飛び込みました。

配属先の事業所で感じた最初の印象は「未知の世界」でした。無知だった自分を恥じていますが、まさに知ることの無かった社会がそこにはありました。賑やかな仲間同士のやりとりや働く姿。すべてが初めて目にする光景でした。ですが、不思議と馴染むまでに時間は掛からず・・・（私が適応するのが早かったという点ではなく、仲間が私を何の抵抗もなく受け入れてくれたことが決定的な理由。この事に私は本当に衝撃を受けました。）

イメージ随想



みやづ作業所
主任 濃野 暁生

求められる力を意識し、仲間の思いが優先される実践をより強固に成すため今日も自己研鑽に励みます！

今回は

障害者相談支援事業所 結

（宮津 結）

主任 山本 和子です。

夢いっぱいフリーマーケットを開催

つむぎ 栄養士 河邊 祐子

4月2日、夢織りの郷を支える会が主催して「第15回夢いっぱいフリーマーケット」を野田川わくばる多目的広場に開催しました。当日は風があり肌寒く感じることもありましたが、お天気もよく出店者のみなさんをはじめ沢山のお客さんに来場していただきました。

夢織りの郷を支える会も着物バザーや大判焼き、焼きそばなどの模擬店を出店し、多くの方にご利用いただきました。また、当日は与謝野町のイメージキャラクター「まめっこまいちゃん」の登場もあり賑やかな一日となりました。

今年で15回目となるこの取り組みの収益は、グループホーム開設など夢織りの郷での新規事業の資金等に充てさせていただきます。そして、このフリーマーケットを通して今後も福祉活動・地域活性・地域交流の促進など新たな地域文化が創造できればと考えています。

最後になりましたが、多くのみなさんのご協力のもと、事故もなく無事終了できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



「ご寄付御礼」

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございます。
2017年2月11日～3月24日

（順不同・敬称略）

木下博美	樋口智津子
登川弥寿子	吉田照枝
岡田由美子	池田里恵
森本照教	多田 薫
岡野 均	大江春雄
藤原さゆり	八木幸子
浪江医院	辻 美江
小西美千代	嶋本卓男
川口芳弘	三宅真奈美
日下部みはる	西馬香織
矢嶋広和	藤原正人
杉本実信	三田真稔
菅谷千恵美	尾上真由美
小長谷砂織	亥野済代
上杉佐智子	森垣敦子
谷本幸男	小牧扶紗子
多田正樹	小牧みゆき
	佐々木 稔

称名寺仏教婦人会

夢織りの郷家族会入院共済会長 西原 俊朗
峰山共同作業所みねやま作業所ゆうゆう作業所
ろむを支える会 会長 松村 繁
夢織りの郷を支える会 会長 川勝 原一郎
夢織りの郷家族会 会長 西原 俊朗

3月25日以降の寄付者は次号に掲載します。

その他匿名でもたくさんのご寄付をいただいております。

日本財団2016年度
福祉車両助成完了のお知らせ



公益財団法人日本財団様より助成を受け、福祉車両キヤラバンがろむの車両として加わりました。ろむでは支援学校の生徒さんたちが「日中一時支援事業」を利用します。安全に送迎を行うため新車両が必要でした。今回の助成で、より多くの利用希望者を受け入れることが可能となりました。みんなで大事に使っていきます。

事業名	車いす対応車
整備車両	日産 キヤラバン
事業費	3,613,340円
助成金額	2,100,000円
配属先	支援センターろむ
完了日	2017年2月21日

編集後記

鯉のぼりが泳ぐ青空のまぶしい五月三日は憲法記念日です。憲法施行から72年。今では水や空気と同じように当たり前に存在している憲法。太平洋戦争のあと数多の命と悲しみと引換えに手に入れた大切な憲法です▼84歳になる私の母は戦争中児童疎開をして親と離れ寂しかったこと、空襲で降りかかる砲弾の中逃げまどったこと、隣の防空壕に逃げ込んだ人が亡くなったことなど、時おり話してくれます▼憲法には国民主権、戦争放棄、生存権を含む基本的人権の保障など私たち全員に大切なことがたくさん書かれています。この憲法をよりどころに朝日訴訟や自立支援法違憲訴訟を闘い、国民や障害のある人の生きる権利を確かめ、命や暮らし、未来を守ってきました▼今、憲法を変えようという動きがあります。もし、変わってしまったら障害のある人やその家族、障害者施設で働く職員の暮らしはどのように変わるのでしょうか▼障害の有無に関わらず、未来の人たちに憲法を手渡すためにどうすればいいのか、子どもの健全やかな成長を願う鯉のぼりを見ながら考える五月になりました。（山）

きょううされん京都支部丹後ブロック主催

仲間の意見交流会

峰山共同作業所

主任 引野 充朗

緊張しながらの発表で成長

2017年3月17日に夢織りの郷ハーモニーホールで、きょうされん京都支部丹後ブロック主催の「仲間の意見交流会」が行われました。

当日は14の事業所から総勢41名の仲間が「他の作業所の仲間と交流する」「仲間の思いや要求を広く知ってもらう」という2つのねらいを持って参加しました。

午前中は旅行・レクレーションをテーマに各事業所が事前に準備した写真や説明などを書いた模造紙を貼り出し発表しました。

峰山共同作業所では事前に何回も



発表の練習をしました。仲間へ発表後の感想を聞くと「とても緊張してドキドキした」「何回も練習をがんばったからうまく言えた」と作業所ではなかなか味わえない経験をし発表を通して成長されたように感じました。みねやま作業所の発表で3泊4日の沖繩旅行に行った、と聞いて会場から「おーっ!」と驚きの声があがりました。行先は多岐にわたり、沖繩旅行やデイズニールランドに行くのにいくらかかったか、など活発に質問が出ました。

昼食は峰山共同作業所、野田川共同作業所（夢かご弁当）、キッチンすまいるに事前にメニューを出してもらい予約注文しました。各作業所

は仲間の大好きなもののばかり狙い撃ちした唐揚げやエビフライなどで競い合い、皆さんそれを注文するかわで大いに悩みました。当日はどの弁当もおいしいと大好評でした。昼休憩には貼り出された各事業所の旅行の様子を見て回り、他事業所の人と会話をすることも…。



仕事で気になることは・・・

午後からは仕事についてをテーマに発表しました。仲間が大きな声で発表する様子から、自分の仕事に自信を持って取り組んでいることが伝わりました。

野田川共同作業所では、仲間の自治会が仕事についてアンケートを取

りました。「今している仕事は楽しいか?」と聞いてみると「楽しい」と「楽しくない」が半々の回答で、「作業がおもしろくない」といった声も出ているそうです。みんなが楽しいと思えるためにどうすれば良いか、これから自治会で話をしていきたい、とのことでした。職員としても「仲間にとって楽しい作業が提供できているのだろうか」「日々時間に追われ、仲間の気持ちが後回しになっっていないだろうか」と考えさせられました。

仲間の気になることはやはり給料やボーナスのことのようで、「給料を何を買う?」「ボーナスは何でそんなにももらえるのか?」「仕事はどこからもらっているのか?」「ねぎはどこで売っているのか?」などの質問が出ました。「ボーナスで親に旅行をプレゼントする」という親孝行な発言もあったり、活発に意見交流し、有意義な時間を過ごしました。

これからもいろいろな事業所の仲間同士が交流を深める機会を持ち、お互いを高め合うことができると良いなと思いました。

